

ふるさと御畳瀬の地名と由来

瀬戸鉄男

全国浦々の町や村の地名はそれぞれ歴史的な由来や伝承と深いかわりがあるが、つけられてきたと思われるがふるさと御畳瀬もその例外ではない。

地名に御という字を冠していることが深い由来から生まれたように思われるのである。
長浜若宮八幡宮司であり郷土史家であった大久保千濤氏の著書、昭和六年六月発行「吾南の名勝・土佐の鎌倉」によると、御畳瀬村の沿革として地名の由来を次のように記されている。

御畳瀬村の御畳瀬という名については古来諸説あってその真相を明らかにするを得ないが今だに諸説として伝わるものを記してみれば、仁井田大明神鎮座記」皆山集一、所蔵(昭和四年)によると

「伊豫家小千性新居之巻に旧く、第二十九代欽明天皇の御代、三韓大乱によって、彼国より我日本へ援兵を乞へる時、その加勢として膳臣、巴堤使入唐、云々」とあり、以下、要点を記録してみます。

・西国の武将大将の伊予家二十三代・小千の守興(もりおき)は渡韓して三カ年彼国に滞留し給い、御徒然のまにまに、韓女と仮の契りを結びて、一男子を生み、その後、三年を経て守興は帰朝の折柄、其一子を韓土に預け置きしが、比兒成長し給へるに従い、吾が父は日本伊予之国と聞く、身は韓土に居て愛恋の情に堪えずと年月涙に咽びつつ、御父恋しや尋ね逢わんと之れのみ心に念じつつ、終に万里の滄海を渡って伊予の国へ来給い、今の三津の浜と言へる所に着き給いぬ。

(現在、三津浜港の目前に「興居島(ごごしま)」の名があるのはこの由来かと推察されます)

然ありて後、御父子初めて御対面あり、第二十四の嗣として小千の玉興と号せられける。

然るに伊予生まれの異母の弟玉澄は予て小千の嗣は吾なりと思ふ折柄なれば、御父兄と仲睦しからず、玉澄は「鬱懐胸に迫まり、今は世の中を悲観している時、小千の祖神玉澄に告げて曰く、「汝小千の家を嗣(つ)がん事は時ならず、暫く此地を退き土金の徳を収めて祖神を祭るべしと、玉澄神託に任せて我故郷を退き去って、土佐の国へと赴き給い、日数程経て、とある浦に着き給いて、卑しき漁夫の家にしばし逗留ありぬ。

・漁夫共はこれを尊び敬み奉り、平素に敷ける処の畳は汚穢とて裏を反して、三つの畳を献りけるが故に、此処を三畳裏と呼ぶとぞ云々」とあります。

・また、別伝として、「小千(のちに越智氏となる)の祖神、山祇大明神彦狭島尊の狭島とあるのはかつて浦戸湾にその美しい姿を表して、近年爆破された狭島ではなかろうか。

・つまり玉澄が伊予から土佐の国に来て小時の間ある浦に落ちのびて座し、再度の神託を受けた場所が現在の御畳瀬であると筆者は思う。

(その他、諸説ありますが、もっとも印象深い由来として、紹介させていただきました) 黒瀬英作拝



2021年

6月19日(土)

～浦戸の町見学～



「うらごんと行く
浦戸とサンフェリペ号」

歴史探訪
サンフェリペ号

浦戸城!

定員20名

浦戸港から浦戸小学校のおともだちが「うらごん」と一緒にARでご案内

さあ、どんなツアーが始まるかな？



浦戸の町を歩いたあとで。。。

スペイン船サンフェリペ号と浦戸のお話を受法寺で住職の横山慶哉さんから聞きましょう！
ここで浦戸小学校のおともだちとお別れ。バイバイ！またね！



その後山道を登って浦戸城へ。。。

お昼は地場産品で作られた創作料理「うらんどめし」を桂浜荘でいただきます！
現実じゃ天守は見えない？ ここにもARがありますぞ。
さあ、探して映像をゲットしてみてください！ 今回のツアーはここまで！
帰りはバスでみませ楽舎までご案内して散会。お疲れさまでした！



- みませ楽舎集合 (8:30) ～ 御畳瀬漁港 (9:00)
- 遊覧船でサンフェリペ号座礁の場所 ～ 浦戸港 (10:00)
- 浦戸の町散策 ～ 受法寺にて住職のお話 (11:00～11:40)
- 登山道から浦戸城あとへ ～ 国民宿舎桂浜荘にて昼食 (12:30)
- 浦戸城探訪 (14:00) ～ バスでみませ楽舎へ (14:30)

申し込み：デリューショントラベル みませ楽舎
参加費用：6000円(遊覧船・昼食・保険代含む)
みませ楽舎観光ガイドが全行程と一緒にします



教室② 地域再生プロジェクト
『地域を元気にするために、住んでよし訪れてよしの観光まちづくり』


テーマ:

★お客様に紹介するつもりでテーマごとの作品を作成しましょう。

サブタイトル	
タイトル	龍馬 1 千丁の銃を持って帰国コース


紹介文	御畳瀬小学校 (出発) → 国光トンネル → 御畳瀬墓石群 → 御畳瀬漁港 → 巖島神社 (棧島・狭島: さじま) → 袂石 (たもといし)、ここから浦戸十景の衣ヶ島 (別名: 続島)、玉島を望む。 → (引き返す) → 干物のやまさき (お土産購入?) → 笑ヶ浦 (わらいがうら) → 新川川の解説 → 県営渡船場・長浜待合所 → (渡船: 周囲の解説) → 県営渡船場・種崎待合所 → 中城家 → 県営渡船場・種崎待合所 (引き返す・渡船: 周囲の解説) → 県営渡船場・長浜待合所 → 干物のやまさき (お土産購入?) → 御畳瀬小学校 (帰着)
-----	---

たもと
袂石

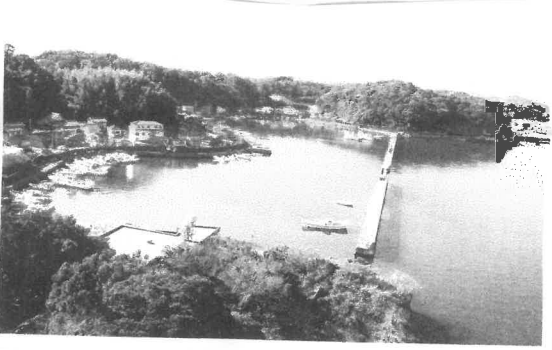


高さ4m、周囲15m、1867年(慶応3年9月)龍馬は1,000丁のライフル銃を震天丸に積み込み、浦戸湾外で潮待ちしたのち入港してこの場所に停泊。ここから小船に乗り換えて対岸の中城家に入りました。


県営渡船場



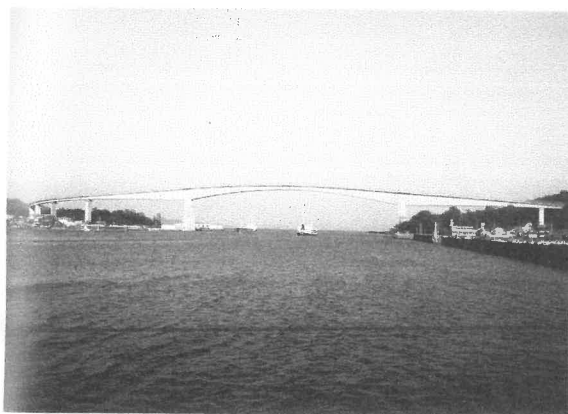
浦戸港



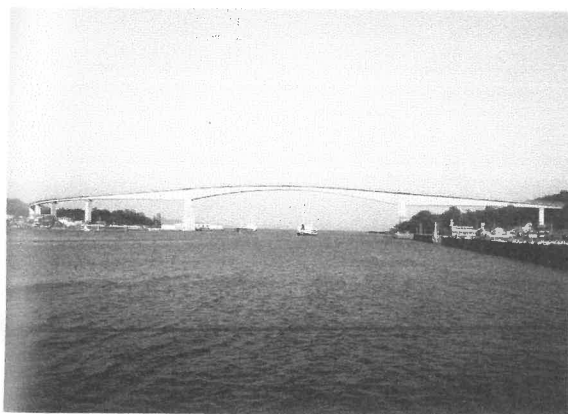
きぬがしま
衣ヶ島 (別名続島)




玉島



浦戸大橋



中城家



料 金		利用時間	
所要時間		実施期間	
定 員 最小催行		対象年齢	
体験場所		予約締切	